

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業いちばんぼし			
○保護者評価実施期間	R7年9月16日～R7年10月11日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40名	(回答者数)	19名
○従業者評価実施期間	R7年9月16日～R7年10月11日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年11月15日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校の仲間だけではない、様々な異年齢のお友だちとの関わりが持てる。	活動内容に応じて、年齢に異なるペアやグループで活動を設定し、年上児にはリーダー役を任せ、年下の子には安心して取り組める環境を整えている。	異年齢の子どもたちが自然に関わり合う中で、思いやりや社会性、コミュニケーション力を高めていくよう、ポジティブな関わりを意識し、職員間でも共有しながら支援していく。
2	保育士、心理士、理学療法士、言語聴覚士など多職種が連携して支援を行っている。	毎日のミーティングでそれぞれの立場から、利用児の見立てや支援方法について共有し、対応方法を検討している。必要に応じて医師への面談や言語訓練の紹介、発達検査の実施を行っている。	研修の実施や外部研修への参加などで個人のスキルを高めることと、専門職との情報共有を行い、支援方法の統一と支援の質の向上に努めていく。
3	様々な活動を取り入れ、子どもたちが楽しく通えるよう配慮している。	制作・クッキング・運動・ゲーム・感覚遊び・外出等の社会体験など、子どもたちの興味や特性に合わせた活動内容を実施している。	活動のバリエーションを広げるために、地域資源の活用や新しい活動の導入を検討していく。成功体験を重ねていけるよう、難易度や参加方法を調整し、安心して取り組める環境作りに努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の建物の構造上、見通しが悪く死角が多い。	現状では、新たな部屋やスペースを作ることは難しい。	スタッフを各部屋にバラバラに配置し、その場を離れる時には声を掛け合うようにして、常に子どもたちの様子に気を配って見守るようにしている。
2			
3			